

「新宿高校には”好き！” “がいっぱい」

小中ももこ (S41 回生) フジテレビ広報勤務

2001年「同窓生シリーズ」に執筆させていただいてから15年、再び在校生の皆さんを始め新宿高校に連なる皆様にメッセージをお贈りする機会をいただき心より感謝しております。現在、新宿高校には私の在校時よりはるかに苛烈な受験戦争を勝ち抜いた優秀な生徒さんがそろっていらっしやると伺っておりますので勉強のお話しは一切なしにして今の私だからお伝えできることについてお話ししたいと思います。

私は現在フジテレビ番組広報部に在籍しドラマやバラエティなどの番組情報をあらゆるメディアを通じて視聴者の皆さんにお届けするという仕事をしております。高視聴率獲得を目標に激変し続けるメディア界において昨日までの常識を疑い新たな方法を模索する毎日です。と一言でまとめてみましたが、そう簡単に自分の過去を否定することは難しく悩みはつきません。テレビを放送時間に見るという形よりもスマートフォンで自分の好きな時間に動画をチェックすることが当たり前となった今、あらためて“見たい！”“好き！”とはどういうことか考えています。

今私がマスコミに身を置いているのは新宿高校での日々があったからこそ、自分の“好き！”にこだわりぬくことを高校生活が教えてくれたからです。時には先生の学校外での活動からあるいは友人たちの強いこだわりに刺激を受け、自分は一生をかけて何にこだわり、何を追い求めていくのかと自らに問い始めたのです。私は子供の頃から朝鮮半島の文化、歴史に興味を持っていましたが小、中学校では正直その話題はしにくいものでした。新宿高校で出合った友人、そして個性的な先生たちは私の興味を尊重し伸ばしてくれ大学では朝鮮半島の歴史、政治を学

びました。入社後も直接、間接的に韓国文化に携わる仕事ことができました。テレビ局ではさらに一層自分のこだわり、“好き！”を問われる毎日となります。皆、語り始めたら止まらなくなるほど“好き！”なものがあります。“好き！”を突き詰め、互いの“好き！”を尊重し合うことが創造をもたらすのだと思います。今、皆さんの”好き“は何でしょうか。進学だけでなく選択肢が無限に広がり、しがらみなど何もない今のうちにこそ、ぜひ”好き！” “をたくさん体験してほしいと思います。新宿高校には千差万別の”好き！” “を認めてくれる優しさと包容力があるのですから安心して突き進んでください。先日もふいに新宿同窓生が著名なアーティストになり海外で活躍中というニュースを目にして驚き、これこそが新宿高校の力、とあらためて確信しました。

2010年、結婚から3年後に韓国人の夫を病気で失うという思いがけない事態に襲われましたがそんな時も新宿高校の友人たちの優しさに支えられ私は再び元気に一步を踏み出すことができました。新宿高校のそばを通るとき今も心が熱くなります。たとえ校舎は変わっても、そこには熱い思い、優しさ、希望があふれていることを知っているからです。新宿御苑の緑の向こうに高層ビルを臨む、そんな唯一無二のスポットで笑顔を浮かべている私を卒業アルバムの中に見つける度に、この時抱いていた希望を忘れてはいけないとくじけそうになる自分を奮い立たせています。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)